

令和4年度 荒川下流域水防災タイムライン（流域タイムライン）専門部会（第1回）
議事要旨

日時：令和4年8月1日（月）14：30～16：30

開催方式：WEB会議（Teams）

開会あいさつ

荒川下流河川事務所 出口事務所長

- ・荒川下流域のタイムラインは、平成27年からスタートし、現在は拡大試行版を運用中である。最近では、荒川下流タイムラインWEB運用会議において関係者との事前の情報共有などの取組も始まっている。
- ・最近では、あらゆる関係者が協働して取り組む「流域治水」が大事なキーワードになっており、タイムラインも流域治水の代表的かつ特に重要な取組であると認識している。
- ・この流域タイムラインは、荒川本川だけでなく流域のあらゆるハザードに対して、あらゆる関係者が協働して取り組むということで、従来の拡大試行版から新しいフェーズに移行する。本日の専門部会はそのキックオフとしての位置づけである。関係の皆様には、我々とのパートナーシップのもとで、水災害の際に実際に使える、役に立つタイムラインにしていきたい。我々もその力添えをしたい。

1. 専門部会規約（案）

事務局より説明

- ◎資料1：荒川下流域水防災タイムライン（流域タイムライン）専門部会 規約（案）
資料1について、異議なしのため規約案については承認

2. 講演

（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター 客員教授 松尾一郎 氏）

- ◎資料2：荒川下流域 流域タイムラインへの深化を目指す

3. 今後の流域タイムライン検討の方向性について

事務局より説明

- ◎資料3：今後の流域タイムライン検討の方向性について

4. 流域タイムラインで河川管理者の実施すべき防災行動

事務局より説明

- ◎資料4：流域タイムラインで河川管理者の実施すべき防災行動

5. 今後の検討に向けての意見交換

松尾座長による進行

◎松尾座長からの問いかけ

- ・荒川下流の氾濫災害に対してどの程度危機感を持っているか。
- ・流域タイムラインについて、質問や意見はどのようなことがあるか。

以下、各機関の主な回答

◎東京地下鉄(株)

- ・3年前の台風19号への対応を経て、洪水時の対応について大きく見直しを行い、岩淵水門(上)の観測所で危険水位に到達する前には電車も全て逃がし、全ての社員が安全な場所に逃げるということを考えている。
- ・台風が接近するとまず風が強くなるので、風が強くなる前に電車を止めることになる。また、岩淵水門(上)の他に治水橋や熊谷などの水位も参考にする。

◎千代田区

- ・台風19号への対応の際、区として初めて区内にある学校施設などの避難所を開設した。ただ、その避難所の開設の仕方が当時の運用にないものであったため、それ以降タイムラインも含めて手順を整理し、水害に対する具体的な備えが整備された。

◎足立区

- ・荒川の氾濫に対する危機感について、台風19号のときは、約3万3000人の方が避難所に避難されたが、夜中に台風が通り過ぎた後の朝方に、荒川の水位が上昇していることを知らずに住民は帰宅した。足立区が危ないと言っても大丈夫だという認識があると思われ、そういった感覚の差を埋めるための取組の1つとして、荒川下流河川事務所と共同でアンケート調査を実施した。その結果を基に今後の方策を検討していく。

◎江東区

- ・台風19号の際には、江東5区の各区と情報共有した上で、水位が高まる前に広域避難をしないという判断に至ったが、台風19号の際は当日になって水位の上昇が見込まれたということもあり、我々は急遽避難勧告を出して避難所開設に至った。
- ・広域避難をする際に、移動手段や避難先の情報を共有しつつ、こちらでも情報収集をして判断をしていくことが重要な課題であると感じている。

◎東京電力パワーグリッド(株)

- ・台風19号のときも荒川タイムラインを活用した。

- ・低地にある変電所については、ある程度の水位までは水が変電所に入らないよう対策を実施している。
- ・移動用の発電機車も水没すると使えなくなるので、荒川下流タイムラインに基づいて高台に移動させる計画も行っている。
- ・司令塔となる拠点が水没して孤立することを避けるため、決められた時点で別の安全な拠点へと移すことを検討している。その後水が引いてきた段階で東京電力管内の各所、また他の電力からの応援の部隊を早期復旧のために使っていく。そのために荒川の状況をしっかりと把握していきたいと思っている。

→松尾座長

- ・変電所を水に浸からない場所へ移転することは重要である。その全てを東京電力が行うのではなく、国と連携して取り組むと良いと私は思う。荒川下流管内で現在東京都と連携して進めている高台まちづくりなどに参加して、東京電力がより安全な施設管理を目指すということはいかがだろうか。このような取組も含めて、課題を皆が共有した上で、様々な政策や展開に繋がることを期待している。

◎東京都立板橋特別支援学校

- ・本校は浸水地域の中央部にあたり、発電施設は水が来ると完全に水没して停電し、体育館のある2階ほどまで浸水する。そのため3階まで避難しなければいけなくなる。そうならないように、年間1回の避難訓練で丘の上にある志村学園への避難を実施している。今年度は新型コロナウイルスの関係で実施していないが、そのような計画で進めている。

◎墨田区

- ・住民の中には自分だけは大丈夫だろうという考えを持たれている方もいることも事実であるので、ハザードマップの情報を基に浸水の可能性についてしっかりと啓発していき、自主的に逃げてくださいとすることが大事である。特に墨田区はほぼ全域が浸水想定区域内に入っているため、広域避難を含めて、電車やバスを使ってなるべく西の高台の方へ逃げてくださいと考えている。
- ・台風が接近したときには荒川下流タイムラインを活用している。気象台の方々の解説を聞いたり、他の区の方々と情報交換をしたりできる機会なので、今後ともWEB運用会議の場を生かして台風対応等を行っていききたい。

◎板橋区

- ・板橋区では、台風19号を踏まえ、令和3年6月に水害避難等対応方針を更新した。基本的に台風による荒川の氾濫は十分起こりうるという想定のもとで進めている。これまでのタイムラインでは参加機関同士が線で連携するようなイメージだったが、

流域タイムラインでは流域全体の大きな面として考えていくことが重要だと考えている。また関係者の皆様と情報共有しながらタイムラインの精度を高めていくこと、それを区民の皆様にしっかりと周知をして避難行動に繋げていくことが非常に重要だと思っており、そういった取組を進めていきたい。

◎JR 東日本

- ・台風 19 号の際、千曲川氾濫の影響で新幹線の車両が甚大な被害を受けた。我々はこのことを受けて、車両を浸水想定区域から遠ざける取組を行っており、気象状況等の予測から車両疎開の判断を支援するシステムを開発した。
- ・また、駅周辺の止水板の設置、地下の浸水対策も継続的に取り組んでいる。

(最後に) 関東地方整備局 廣瀬局長より

- ・タイムラインについて、静であった「計画」に時間という概念を入れることで「情報」を載せ、時系列で動く防災計画にした点が重要な要素である。それぞれの法律に基づく計画が時系列で整理され、情報に基づいて動いていくようになると、その情報の連携が必要になる。その意味で、流域単位で洪水対策に取り組むことが必要である。
- ・流域の中で普段から顔の見える関係を作り、自治体間の連携を行うことは重要である。
- ・デジタルトランスフォーメーションの時代において、データの連携を積極的に行う一方で、人や組織の連携も流域単位で進めていくことが必要であり、流域の中でチームでの連携をとっていただき、前向きな取組になるように進めていただきたい。荒川下流を中心に荒川上流や上流のダムまで含めて、流域一体で取り組んでいくにあたり、まずは荒川下流がその礎となっていいただきたい。

6. 今後の予定

事務局より説明

◎資料 5 : 今後の予定

7. 講評

村中アドバイザー

- ・我々にとって非常に大きなインパクトがあった 3 年前の台風 19 号を除くと、東京湾での高潮は最近の 200 年ほどの間では起こっていないが、台風は必ずしも同じようなスピード・同じようなコースを通るとは限らないということ覚えておいていただきたい。
- ・台風 19 号は南海上から関東地方に近づくまで 3 日ほどかかったが、伊勢湾台風のように 1 日半ほどの速いスピードで来る場合もある。その場合は勢力が衰えず、状況は

様々に変わってくる。

- ・したがって、台風 19 号は我々が想定すべき一つのモデルではあるが、そのときの状況でとるべき対応は大きく変わってくるため、台風 19 号を頭に入れながらも、もっと悪い状況や全く違った場所で発生しうるということをぜひ考えておいていただきたい。

松尾座長

- ・事務局から説明されたスケジュール感で進めていくが、次回の専門部会の前に、WEB 開催で勉強会を 1 回実施したい。

荒川について上流から下流までを含めて知識を共有し、その上で自分たちの行動やそのスイッチを改めて考えていただくことが必要である。また、村中アドバイザーや気象台を含めて、関東地域における 1917 年の高潮災害（関東大水害）についての勉強も行いたい。それによって様々なパターンの台風があることが認識されると思う。以上を行った後に、各機関の対応を考えるタイムライン検討に入っていくイメージである。

閉会あいさつ

荒川下流河川事務所 総括地域防災調整官

以上